

# 解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（13・下）

—— 夫熙錫さんへのインタビュー記録 ——

藤永 壯／高 正子／伊地知紀子／鄭 雅英／皇甫佳英  
高村竜平／村上尚子／福本 拓／高 誠晩

A Survey of the Life Histories of Resident Koreans in Japan  
from Jeju Island in the Immediate Postwar Period (13) — Part II —  
— An Interview with Boo Huesuk —

FUJINAGA Takeshi, KO Jeongja, IJICHI Noriko, CHUNG Ahyoung  
HWANGBO Kayoung, TAKAMURA Ryohei, MURAKAMI Naoko  
FUKUMOTO Taku, KOH Sungman

## 4・3 事件について（続）

《朝鮮戦争の予感》

—— どうして助けてもらえたのですか？ お兄さんがいるからですか？

夫：兄貴が委員長でやっていたから。それで、その時には、まあ、予告みたいに僕が感じたのは、朝鮮戦争が起きるといような、予告をしたんです。

—— 予感がしたんですね。

夫：したんですね。だから実際その時は春でしたから。6月に朝鮮戦争は起きましたね。

---

平成25年10月21日 原稿受理

大阪産業大学 人間環境学部文化コミュニケーション学科教授

——その時お兄さんは、まだ生きておられていたのですか？

夫：いや、もうどこ行ったかわからない。えっと、その4・3事件の後。その年ですね。

——その年。地区の委員長というのは、南労党<sup>ナム ノ ダン</sup> (12- \* 5) ですか？ それとも？

夫：南労党<sup>ナム ノ ダン</sup>です。あの時は、南労党<sup>ナム ノ ダン</sup>しかなかったんですよ。で、朴憲永<sup>パク ホ ニョン</sup>がその党首<sup>タン ス</sup>だったんですからね。その人の支配の下でみな動いたと思います。

——ということは先生<sup>ソンセンニム</sup>には、その熙順<sup>ヒ スン</sup>さんというお兄さんと、他に兄弟は？ 妹さんいらっしゃるんですよ。

夫：おります。今、済州島<sup>さいしゅうとう</sup>にだいぶとね、だいぶ年が離れてます。

——その妹さんは何年生まれですか。

夫：まあ、僕が自分の年も分かってないですけど、60、今、3か4ぐらいじゃないでしょうか。朴正熙<sup>パクチヨンヒ</sup>の時だいぶいじめられたと言っていましたよ。だから最初はもう、ビクビクしたと。2回〔警察に〕呼ばれて行って、3回行くようになって呼ばれた時にはもう、どうでもええという腹がすえ、すわったと言っていました、僕に。

——なんで、いじめられるの？

夫：兄貴がアカで日本に行ったと。

——お兄さんが。それで4・3の時活動をしたと。先生のお兄さんは、いくつくらい上だったんですか。

夫：だいぶ上です。あの一、歳はちょっと上です。あの、6ぐらい上じゃないかな。

——1929年生まれ。えーっと、妹<sup>チェジュド</sup>さんは済州島生まれ？ 日本生まれ？

夫：ですから一緒に〔日本から〕帰ってきた。1943年、帰ってきた。

——赤ちゃんの時に疎開で帰ってきた？

夫：1年目になる年に帰ったと思うんです。日本に対して全然分かんないです。

——中学校に入られたのは、1949年ですかね。

夫：えー、49年。あの時、中学ということをして、じゃなかったんです、名前が。あの、

高等公民学校<sup>コドゥンコンミンハッキョ</sup>\*<sup>8</sup>。中学ができなかったんです。

——中学院っていう名前は聞いたよね、どっかで。<sup>チョチョンチュンハグォン</sup>朝天 中学院ではなく。

夫：<sup>ハグォン</sup>うん、<sup>チュンハク</sup>学院，<sup>チュンハク</sup>中学の間。

——中学校になる前は，高等，高等公民学校。それが，<sup>シンチョン</sup>新村 にあったんです？

夫：それが<sup>チョチョン</sup>朝天 にあった。それで，中学の認可もらって，その学校。

——中学院になったんですか。そこに，あの<sup>イトック</sup>李徳九<sup>(④-⑤)</sup> という方おられました？

夫：そのね，朝天中学院っていって，そのやった時，<sup>イトック</sup>李徳九先生がああ，<sup>キョピョヌル</sup>교편을 취하고  
<sup>잇엇습니다</sup>있엇습니다 [教鞭をとっていました]。そして，その先輩らが僕の1年，2年先輩なん  
です。その先生に教わった人らが，今，ホ・ヨンヌク先輩とか。あ，ホ・ヨル氏が<sup>パク</sup>朴  
<sup>チョンヒ</sup>正 熙の時26年刑打たれて。そのことを思うと。あ，<sup>ソンシ</sup>姓氏も違うし，先輩後輩，1年  
先輩後輩ですけど，相当，家族全滅された先輩なんですけど。<sup>チョチョン</sup>朝天 出身です。頭のよ  
い人でしたけどね。

——<sup>ハムドク</sup>威徳には<sup>ソブク チョンニョンダン</sup>西北青年団<sup>(⑧-③)</sup> は来てましたか？

夫：いや，もうそれはもう，半端じゃなかったです。<sup>ソブク チョンニョンダン</sup>西北青年団。もうそのこと言ったら，  
いやもう。それで，あの先輩<sup>キム ユノク</sup>金氏とか，あ，<sup>キム ユノク</sup>金潤玉，<sup>ア ボ ジ</sup>金潤玉氏 [の] お父さん，あの  
兄貴ある人，<sup>ユンギ</sup>潤基氏とか，おったんですけど，みんな首，三人首切られて。ボールみた  
いに，<sup>ハムドク</sup>威徳でね，みんな山に。昨日はここで<sup>チェ</sup>チェ・ゲバラのね，「最後の手紙」の映画[「チェ  
39歳別れの手紙」(アメリカ・フランス・スペイン，2008年)] 観ましたけど，髪の毛  
はもうこんな [伸びている] でしょ。髭はこうでしょ。そしたらもう，頭の毛持って，  
こうですよ。そして [首を] 足で蹴ったり，ね。そして，その晩は眠れませんでした。  
いくら気強く持っても。

——それは村の人たちがいるところですよ。

夫：みんな。もう。そうして [村の人たちに] 見せるんです。そして女の人 [の] 首切っ  
たの，この板の上にずーっと並べて 〈一同：んー〉。展示会するんです。

——さらし首っていうやつですね。

夫：さらし首みたいな。そしたら，そのこの喉？を槍でこうやって，持ち上げて。夜が明

けてみたら。

——青年団とかが、やるんです？

夫：それは<sup>ソブク チョンニョンドン</sup>西北青年団。

——<sup>ソブク チョンニョンドン</sup>西北青年団がやる。これ、<sup>ハムドク</sup>咸徳のその向こうで、この4・3で亡くなったっていう人を届け出た名簿が村ごとにあるんですけど、例えば。

夫：あのね、ここに出てるお名前の方ばかりじゃなくて、口結んでいる方多いんです。ばらさない人が今、たくさんいます。今、平和公園<sup>(8-6)</sup>行ったこと、あの先生方、行ってるかあれですけど。<sup>イトツク</sup>李徳九の名前も載ってないし。<sup>キムタルサム</sup>金達三<sup>\*9</sup>の名前も載ってないと思うんですよ。なぜ、その人ら載ってないか。怖いから、あとあとが。わが民族は、残念ながらね、そんなところがあるんですよ。引っ張る癖がある。ちょっとよくなってきたら、引っ張るんですよ、裏で。<sup>ネ ガ イルボネ</sup>내가 일본에 와서<sup>ワソ</sup> [私が日本に来て] こうやってね、何とか逃れてきたけど、そこにもちょっと僕、感想でちょっと書きました。あの、お願いということで。

## 朝鮮戦争

### 《朝鮮戦争期の生活》

——なんで日本にあの、来られる……？

夫：動機がね。今から説明します。それは。これが、訓練を受けてる時の写真です〈一同：わあー〉。

——どこで？ 軍で。あ、軍に入ったんだ。韓国の軍隊で？ 軍隊には何年に入られたんですか。

夫：5年おりました。

——5年間。朝鮮戦争が勃発した。

夫：そう、終わるときに行ったんです〈一同：ああ〉。朝鮮戦争、7月に朝鮮戦争、休戦になったから。7月17日[実際には1953年7月27日に休戦協定調印]。そしてその年の、9月に行きました。もうめっちゃくちゃな時です。あちこちもう、死体が転んでる。

——どこに行ったんですか？

夫：一番，第一線に行きました。訓練を受けて。あの，<sup>キョンギド ヨンチョン</sup>京畿道漣川。零下36度〈一同：ええ？〉。

——そんなになります？ <sup>ヨンチョン</sup>漣川で。

夫：<sup>ヨンチョン</sup>漣川で。<sup>ユックン</sup>陸軍，もう，兵隊行きたくなくて。

——それは，済州で徴兵されて？

夫：そうです。

——済州の部隊が，その<sup>ヨンチョン</sup>漣川で？

夫：で，高校の時に学校がとめてくれたんです，赤紙。それで僕が話をしましたが，1年1年こう言葉ができないから，言葉ができないから，ずらされたんですよ。だから年が22になって，高校卒業したんです。

——え，どこの高校出られたんですか。

夫：<sup>ハムドク</sup>咸徳 [高等学校]。第1期生です。ですから<sup>ハムドク</sup>咸徳行って，僕の年，先輩らに言ったら，僕の名前覚えてる人，多いと思います。たぶん，結構あの<sup>イヌンマン</sup>李承晩選挙の当時も，だいぶ活動してテロも受けました。夜，歩いとったら，家でも寝られなかったです。

——捕まえられて。

夫：暴力団に。金もらって動いたんでしょうね。あいつをやっちゃえっということ。で，家にいる時。

——2選目の時 [1952年8月] ですよ。釜山に政府がある時ですか？

夫：え？ そうです。そしてあの家に寝られなくて，警察が呼んでるという話を聞いて，「お前，日本に行くつもりでいるだろう」と言われて，「いや，行かない」。それが手紙をみんなもう，みんな，調べるんですよ。それをどうして分かったか [と] 言う，軍隊 [へ] 行った時，分かったんです。だからあの，最高司令部，あの人事課におりましたから。陸軍本部の直轄でおったから，その部隊から来る手紙はあるんじゃない。ちょっとおかしい手紙は，みんな切って見るんですよ。そして悪かったら，みんな焼いちゃうし。家族に送ってやらないんです。

——その、その時は松堂<sup>ソンドン</sup>に、松堂<sup>ソンドン</sup>に住んでいらっしやった？

夫：いえいえ、咸徳<sup>ハムドク</sup>で、咸徳<sup>ハムドク</sup>で。4・3事件で混乱して、その食料がないから、近くに住んでちょっと食料とるために行っただけのことなんです。もともと住もうということでは、なかったんです。

——[山から]下りてきて、高校に通いながら？

夫：そうです。だから、高校でも、まともに4月に入学できなかったんです。編入生としてで、試験とって僕だけ合格して。で、お金がないから、あの、新聞にも載りましたが、あの、中学の先生が給料[で学費を]払ってくれて〈一同：へえ〉。それ新聞にも載って。

証拠がないからということで、[父に]手紙でやったら[学費援助を求めたら]嘘つきだと思って、報道した新聞を日本に送ったこと、あるんです。高校入学して、このようにお金なくて、中学の先生がお金出してくれたということを新聞に載せて。僕が手紙でこうやったから、援助頼むと言って、日本に手紙出しても、認めてくれないから。

——あ、お父さんに？ 〈一同：ああ〉

夫：[学費がないという]証拠を、その新聞と(笑)、報道記事を[父に]送って、送ったことがあります。だから僕の後輩らは、よく分かりますよ。先生が、あいつ金、ね。出してもらって高校行っとったからさ。で、高校では奨学……生として、あの時、毎日軍隊訓練ばっかしでしたけど、あの時、学校報国団<sup>ハクト</sup>。学徒報国団<sup>ボグクタン</sup>\*<sup>10</sup>。아라요? [知っていますか?] いやねえ、僕ひとりだけ、あのでっかい、大っきい賞状もらったことがあります 〈一同：へえ〉。この人はもうなんだかんだ言うて。今見たら、報道機関がよかったら、写真でも撮って記念の[を]置いとったね 〈一同：笑い〉。[のちに済州島へ]行ってみたら、もう家はむちゃくちゃで、あの(笑)、もう、残ってませんでした。

——それまでその、まあ例えば、さっきの少年団とかされ、そのことで目をつけられたということはありませんよね。

夫：はい。あります。

——それでこう、引っ張っていかれるっていうことはなかったんですか？ それを理由に。

夫：引っ張っていかれることは、ありました。うん、あったけど、あのまあ僕、馬鹿みたいなあの、行動とったのか、あの時はいや、真面目なことをちょっと見せたんですよ、

口で。まあ先生方、こんな言葉をおっしゃった。<sup>イム ギ ウンピョン</sup>臨機応変<sup>イム ギ ウンピョン</sup> 変<sup>イム ギ ウンピョン</sup> っ てるんですよ。うん。緊急な時に、その。

——例えば、その朝鮮戦争の最中に、警察に呼ばれたりとかは？

夫：ああ、そうです。チェックして、警察行って。あの、地元ですから先輩、後輩、みな先生もおるし、よく知っておったし。中学当時でもこれ、そんな勉強はできませんでしたが、ちょっと指導的な立場で、いろんな学生運動をやっていましたから、その名前は売られたんじゃないですかね。

### 《軍隊での生活》

——え、それで軍隊に行かれて、えっと何、何年間、5年間とか？

夫：足掛け5年間。そして、最初はあの、6カ月訓練。人殺しの訓練だけ。訓練を受けたら、名前呼ばれるんですよ。あの、韓国の経験がある人は分かるけど、バックがある人はよいところに送ってくれて、お金のなく、何も無い人は一線に送って、ね。訓練受けて、みんな練兵場に座って名前呼ぶの待ってあったら全然呼んでくれないんです。いや、その時、私が22、23の年でした。やけくそなって、いっぱい飲みました。飲んで目覚めたら、漢江。<sup>ハンガン</sup> 鉄道を渡ってましたね〈一同：へえー〉。

そしたら、どこ連れて行くって言ったら漣川<sup>ヨンチョン</sup>ですよ、第一線。休戦、あのイムジン河<sup>イムジンガン</sup> [臨津江]、そのほとりに行って、また、現場の訓練を1カ月やるって言うんですよ。そしたら零下が36度です。食事のご飯は、こんな匙<sup>スッカラク</sup>で、スプーンで押さえたら3つ [3杯分]。おかず、おかずと言ったら、カクトゥギ [大根のキムチ]、大根のカクトゥギが3切。味噌汁言うたら、牛の骨をちょっとこく、蒸した水とか油がちょっと浮いたみたいなもんで、ね。湯気が出てんのは、その味噌汁だけです。お腹空いて、空いて、行進中でトラックの下に入っちゃおうかなと思う時も何回もありましたよ。それで、あの運よく作戦、G3 [参謀第3部] \*<sup>11</sup>。

——G3？

夫：G2。<sup>チャクチョン</sup>作戦。あの、最高司令部だからG2ですよ。その下が各連隊があって、そのいろいろあって1万4千人ぐらい、一個師団がね。そこの人事を担当したんですけど〈一同：へえー〉。担当してみたら、その今さっき言ったように封筒、みな切って、悪いのは、みんな焼いちゃったり（笑）。

あの時は、プリピン〔ブリーフィング〕する作戦計画、企画立てるでしょ。それを、みんなプリピン用を作成しなきゃだめなんですよ。紙に書いて、チャート紙〔自動車速度計に取りつける円型感圧記録紙。ここでは会議用資料を指すと見られる〕をね、部隊長だけで、みんなこう説明するんですよ。敵がこう来るから、そうしたら北からもね、来て戦ってね、殺されたりする場面も何回もあったり。第一線で寂しいところ、ひとりでね、あの、見張りやっておって、自分の銃で自分死ぬやつもおったり。そしたら、結果が人事課にみんな来るんです。そしたら人事課の封筒の中にはその人の髪の毛と爪。こんな小っちゃい袋に入れてあるんです。骨じゃないんですよ。遺族に送るのは。

——そういうことをされる。

夫：そして死体はドラム缶に重油か、油入れて燃やしちゃって。ですから軍ってものは、そんな残酷なもんですよ。残酷ばっかり見てるから、今はもう、人間、死なんてへっちゃらに思いますけどね。

一時は、お酒はよく飲みましたよ。あの8時勤務して5時やったら司令部だからピッと終わって。その後は、あの偉いさんが来るんですよ。今日ちょっと時間あるか言うて。階級は下だけど、歳は上や（笑）。来て、「ええとこあったら、人事〔異動〕してくれ」と。その晩はもういっぱい飲んで、飲まされたことがありますけど。

金に欲を出したら金儲けたかも知れませんしね。人殺してでもね。悪いとこに（笑）、行かしても、「ええとこ行かしてやるから、お金くれ」と言って。それがやり方でしたから。それで除隊して、社会に来てみたら、就職するところがないですよ。

——済州島に戻ってこられて？

夫：ええ。とりあえず<sup>さいしゅうとう</sup>済州島に戻って。

自分のお袋〔に顔を〕見せて、また陸地へ行ったんです。<sup>ブサン</sup>釜山生活も1年半ぐらいいやりましたか。就職、<sup>ブサン</sup>釜山生活やったんだけど、どうしようもなく。そして国民がみんなその時、鬱憤がいっぱいあったじゃないですか、<sup>イ スンマン</sup>李承晩に対して。そして学生が、あの<sup>キムチュヨル</sup>金朱烈<sup>\*12</sup>が鉄砲玉、目に受けて海に放って。それが<sup>マサン</sup>馬山の海に浮いてきたの見て、いっせいに、<sup>マサン</sup>馬山で学生運動が起きたわけですね。そして、<sup>イ スンマン</sup>李承晩がハワイに逃げたり、副大統領の家、<sup>イ キ ブン</sup>李起鵬<sup>\*13</sup>の家が自分の息子に殺されて焼かれたり。そして、<sup>チャンミョン</sup>張勉<sup>\*14</sup>が〔首相に〕なって。



## 再渡日

### 《日本への密航》

夫：だから今度は、朴正熙<sup>パクチョンヒ</sup>がクーデター起きた時、セマウル運動<sup>\*15</sup>ってご存知ですか？

——はい、新しい村<sup>セマウル</sup>ね。

夫：その時、済州島<sup>さいしゅうとう</sup>で僕もそこに、セマウルに参加せえと言われたんです。歳は27。ああ、ちょうどええ歳だなと思ったんですけど、ある先輩が、「お前おったら危ないから、ケーアイシー [KCIA = 韓国中央情報局の言い間違い] のやつが、貿易船あるから日本に行け」ということで日本に来てみたら（笑）、自由に活動できると思ったら、とんでもありません。鉄道の乗ろうと思ったら、何か住民票持って来いとかさ。何にもできないんじゃないですか。男が男じゃなし、黙って奴隷みたいに黙々と勤めて。漢字も読もうと思ったら、漢字が全然読み方が知らない。言葉もわからん、地理も知らない。また、考え方が違うんですね。同じあの血<sup>ヒョルチョ</sup>祖でもね。

——結局、日本に来られたのは、61年？

夫：61年。あの、朴正熙がクーデターを起した年ですから、61年。

——その年のうちに。

夫：5月16日、あのクーデター。で、最初はよかったんですよ。[クーデターが]起きた時は、こんな腐った社会を直してくれると思って喜んだんです。

——その時は、クーデター、最初は期待してたって言うのは、周りもそういう期待してた？

夫：そうです。そして、暴力 [団] 関係とか、いろんなものを軍の力で、みんな捕まえて、あの、平和にしたから。すごく期待したんです。

——日本に密航で来られる時、船ですよ。その船って、どのぐらいの大きさですか？

夫：木造船でね。あの、済州島で取れた、あの、日本であの、高く売れてますよね。あの、黒い、あの海に、ヒジキ。ヒジキを乾かしたやつを、カマスにいっぱい積んで、日本に来たんです。そのヒジキの下に1週間隠れました〈一同：ああ〉。

——どこから？

夫：<sup>チュジュ</sup>済州から来たんです。ですから、<sup>チュジュ</sup>済州にケーアイシー [KCIA] のやつが、お前はここにおったら危ないから、日本に逃れ [ろと]。

——それは、どの港から出はったんですか？

夫：<sup>チュジュ</sup>済州の。

——<sup>サンジ</sup>山地 [港] から。で、その時ひとりですか？ 乗ってはったんは。

夫：いや、中には何人か隠れてました。

——お互い、話は？ お互い知らない？

夫：知らないです。

——知らないですか。どこに着きました？

夫：着いたのはね、まあ今だからね、ばらします。神戸に着きました。

——瀬戸内海ですか？ 鳴門海峡 [から] ？

夫：鳴門海峡からずっと。

——入ったんだね、太平洋から〈一同：はあ〉。高知のどこ通って来たんですね。じゃあ大回りした。海流は大阪港に入る。神戸のどこに着きました？

夫：神戸港に着いたということですから。上陸する時には船員の手帳を俺らが借りて〈一同：ああ〉、上陸した〈一同：へえー〉。

——船員として上陸して？ 密航のほとんどが、もう昔みたいな形で来られなくなって、60年代は。それでみなさん、安全のために船員手帳を持って上陸するっていう形で。だからそれをまたこっそり船に戻すんですか？ 手帳だけ。

夫：そう、そうです。一緒に、あの、降りる時、船員と一緒に、上陸するんです。その船員に渡しちゃう。

——上陸だけして？

夫：その人 [船員手帳の所持者当人] の、船員は船で待ってるんです。

——ああ、なるほどね。だから、待ってて。その人の分は、行ってまた戻して。

夫：だからその時、厳しくなかったんです。だから、船員証見せて、そのままパスしました。

——船員はね。その時に写真はない？ [船に] 乗るのに、いくらぐらい払ったんですか？

夫：あの時ね、後で僕は運よく、ただみたいに来ましたけどね。まあ、あの時は船長も知ったから、よかったんですけど。だいたい日本のお金で 30 万ぐらい〈一同：へえー〉、要ります。

——あの時代で 30 万。

夫：それでもみな来たかった。

——船長さんは済州のどこの人ですか？

夫：<sup>サミヤン</sup>三陽<sup>サラム</sup>の人です。もう死んでいないです。

——その人らは、ずっとそのお仕事を？

夫：うん、昔から。日本の時代から。ですから、僕にも危ないから行けということで。

あのなんか、僕のその生きてきた道っていうのは、あの、簡単にこう、申し上げましたけど、なんか疑問にあって、ありましたらどんどん言ってください〈一同：笑い〉。

——上陸したときに、日本円持って来られました？

夫：いえ。持ってません。

——そしたら、どうやって大阪まで行かれたんですか？

夫：ですから、僕のいところに連絡、電話だけ。番号だけは知った。

——どこから電話したんですか？

夫：神戸から。迎えに来いって。

——で、その時電話するのに、お金は要らなかったんですか？

夫：要る、要りますよ。その、旅館に頼んで。

——貸してもらって。ああ、旅館に入ったんですね。

夫：そうです。船がみんな手配した。

——とりあえず港の近くの旅館で、とりあえず待っとけと。で、旅館の電話で。

夫：だから頼んで、電話して、ここにいるから来るように、来たから来いというわけじゃなくて、来ているから、このホテルで待ってるから、来いと、来いと。じゃあ、[いとこが]来てました（笑）〈一同：へえー〉。

——そのいとこの方というのは大阪にいる？

夫：ええ、<sup>クンシ</sup>根時というやつ。

《日本での生活、大阪にて》

——じゃあ、日本に来られて、お父さんと一緒にですか [一緒に暮らしましたか]？

夫：いえ。で、ちょっと会ったんですけど、親子の情がないから。

——ずーっと別れてるわけですか。一回も済州に来てないのですか？

夫：なんの援助も何もなし。ただ貰ったのは親父に、風邪ひいて風邪薬買うからと言って1,000円貰っただけです。こんな恥ずかしいことがあって、ええもんかな思うんですよ。

——ということは、お父さん<sup>アボジ</sup>はもう他の女性と家族を持ってた？

夫：うん、そうね。やっておったみたいですけど、一回も連れて行ってもくれない。で、僕はとんでもないところで、住み込みで。あの時は住み込みがはやってましたよね。

——やっぱり、じゃあ大阪におられたんです？

夫：そう、そうです。今も大阪弁がちょっと残ってるって言って、すぐばれるらしいです  
〈一同：笑い〉。生野のね、猪飼野の近くのあの、田島。

——田島や 〈一同：へえー〉。どういうところにいたんですか。

夫：あの、ツッカケ [サンダル]。あの時、朝鮮人の商業がツッカケじゃないですか。

——なんていう名前のとこですか。

夫：あの、その時はなんかあの、メーカーの名前は「クラブ」。

——済州島の人ですね。

夫：ええ。それは僕の、いここ。はとこ、はとこ。あの人はここで生まれて、ここでずーっともう、全然世界は知らないです。だからね、同じ。

——同じ夫<sup>フ</sup>氏。

夫：同じです。じゃあ、ほ、僕はあの夫<sup>フ</sup>氏ですけど、「時」字〔を行列字として〕取るんで、あれ、〔いここは〕根<sup>ケン</sup>時<sup>シ</sup>といいます\*<sup>16</sup>。

——ツッカケ作ってはった。クラブのね。

夫：あいつ〔夫根時さん〕もその時はもう手あげてね。破産して、貧乏のときでしたけど。

——そのままクラブっていう名前でされてました？　ずっと。

夫：ええ、そう。ツッカケの名前ですよ。

——ブランドでしょ？　ツッカケをつくってたんですね。

夫：ええ、そうです。

——その工場の名前、なんていうんですか？

夫：ミハラ化学。三<sup>さん</sup>の原<sup>はら</sup>。

——ああ、そうですか。

夫：あれはね、済州島の昔のおじいちゃんらは、みな、頭を使ったんですよね。三<sup>サム</sup>姓<sup>ソン</sup>穴<sup>ヒョル</sup>\*<sup>17</sup>ってあるじゃない。三つから生まれた、子孫がね〈一同：ああ〉。その三つの腹から生まれたということで三腹が……。

——ああ、そういう意味なんか。それでミハラってハラ、お腹の「腹」。でも漢字は「原」でしょ。原っぱの「原」。〔在日済州島出身者の日本式名字に「三原」が〕多いですよ。

夫：そうです〈一同：笑い〉。ですから、「高山」とか。あの、高氏は「高山」が多いじゃない。まあ、「金」も多いけどね。

《日本の会社で働く》

——そこで何年ぐらい働かれたんですか。

夫：そこで、1年ちょっとでしょうか。そして飛び出したんです。あんまり自分が情けないから。そして日本の会社に入って、そこで勉強をしだした。

——何の会社ですか？

夫：建築会社。なぜ、その建築会社に入った[か]という原因は、朝鮮がその時戦争で、焼き野原じゃないですか。将来、国に帰っても建築だったら、なんとか〈一同：ああ〉、自分のあの、一生を、舞台を作れると、希望がありましたから。

——じゃあ、行く行くはもう、帰られるつもりで。

夫：うん、もう。なぜ[かと]言ったら、こんなにね、権利も何も、就職もできない男を男として生きる道がない。日本でどうして生きていいのか、分からなくなってきた。技術でもちょっと覚えて、建築会社行って。そしたら、言葉できないじゃないですか。で、隠れてもう、字を勉強したり。

——えー、でもそこは日本の人の会社ですか？

夫：そうです。

——どうやって、その門を叩いて？

夫：紹介です。

——紹介で。その時は、外国人登録<sup>(⑥- \* 23)</sup>は？

夫：ないです。そうするから、小っちゃくなってね。登録だけあったらもう、あの2級建築士でも取りたい気持ちがあったんだけど。登録持ってこいって言うんで。外人だったら、ダメでした。

——どういう方の紹介で？

夫：いや、知り合いです。あの、<sup>さいしゅうとう</sup>濟州島。

——濟州島の方も、じゃあその時も生野、猪飼野にある？

夫：ええ。桃谷にあった。

——桃谷〈一同：へえー〉。

夫：サンコウ建設っていう。もう今はないです。

——コウは「高い」ですか？「光る」？

夫：あの、フン〔興〕。

——三興。

夫：<sup>フンチャ</sup>홍자 <sup>이</sup>있지 <sup>아</sup>않습니<sup>까</sup>까？〔興字，あるじゃないですか？〕

——そこはじゃあ長くお勤めに

夫：そこで、行って何カ月かなあ、やったらつぶれちゃって（笑）〈一同：えー〉。

——困りましたね。

夫：そうね、そうしてそこでまた誰かにね、あの、突っ込まれちゃって。あいつ登録ないって。

——ああ、密告された？

夫：密告された。そして警察に捕まっちゃって、大阪入管から45日、えっと45日以上置かれなかったらしいんですよ、あの時の法律は。そして仮保釈されたんです〈一同：えー〉。そして手紙が来たんです。尋ねたい事があるから、出頭せえと。いやあ、まさか在留許可でも下りたんじゃないかなあと思って喜んで行ったら、退去命令出てるから（笑）〈数名：ええー〉。

——大村〔収容所〕<sup>(5-＊14)</sup> ですか。

夫：大村へ行く状態だったんです〈一同：ええー〉。んで、それでも俺、今まであの、住んでおったものを整理しなきゃだめだから、ちょっとだけ出してくれと言って〈一同：あー〉。出してくれいう条件で、そしたら2週間〔の保釈許可が出た〕。で、20万を保釈〔金として〕積んで。出たら、そのまま逃亡しちゃった〈一同：笑い〉。

《東京での生活》

——それで、どこに行ったんですか？

夫：そしてもう、大阪でかくれんぼ、あちこちやってもだめで。警察がつきまとして。で、東京に上がって。東京もつきまとして。で、江戸川のあの、長島町におりましたら、夜の仕事やって、帰ってきて寝ようかなと思ったら、コンコンっと。逮捕状見せて〈一同：ええー〉。<sup>ブチヨンシ</sup>「夫 鐘 時でしょう？」「はい」「出てこい」。今の品川の東京入国管理事務所。で、僕がよかったのはね、その時、子どもを全部、あの、こんな話したら（笑）、ほんとに変な話ですけど、<sup>さいしゅうとう</sup>済州島に嫁さんを戸籍に入れたんです<sup>5)</sup>。で、子どもも全部、手紙1本で、官庁に知ってるヤツに頼んで入籍したんです。あの、手続き取ってくれと。みな入れとったんです。そして、嫁さんはここで生まれた人だし、子どももここで生まれたから。また、会社自身が日本の会社の社長だったし。ええ人で、嘆願書も出してくれたりして、仮保釈。そしたら1カ月、1カ月の〔在留資格を得た〕。

——そうですね。1カ月、最初はね。

夫：1カ月。そうして次になったら、3カ月。3カ月になったら、なかなか。6カ月。で1年。そしたら歳は取ってくるわ、何にもできないわ、ね。そして3年。そしたら今度は定住者といって。定住者でも、いつまでも定住者では、これはもう期限になったらまた切り替えなきゃだめじゃないですか。それで、申請したんです。永住申請をしたら、まあ、うまく通ったみたいです（笑）。

——その間、こう、あの、民族団体の活動とかに関わられるっていう？

夫：ですから、あの東京来て、組織というものをほんと理解するようになったし、子どもが成長になる、なってきて、ああ、民団もあるし総連もある。朝鮮学校もあるし、まあ民団の学校もある。そこで総連というものに対して、僕はちょっと疑いの面もありました。なぜあの、韓国から来て、自分の子どもを自分の学校に朝鮮学校に入れなきゃだめなのか。わざわざ留学さすのが、当たり前なのに日本の学校に入れなきゃだめだとかね。大きくなったら自分の国に行かしたらいいんだ、と思って。

——子どもが大きくなったらね。

---

5) 夫人は、済州島の大静から日本に<sup>テジョン</sup>来られた両親のもとで、日本で生まれた在日2世である。古阜李氏で、大阪市生野区の大池橋に住んでいた。



夫：自分の国のことを思えば、そうしたらいいんじゃないかと思ったんですけど。環境の中にもあったし、自分の弱い立場もあったし、まあ、その周囲の人が僕をだいぶ助けてくれました。かくれんぼやってる時にでも、たとえ、なんかあった時でも、力になってくれたのが同胞でした。同胞が民団の人じゃなく、総連の人でした。総連を僕はあの、立てるんじゃない、人間関係としては総連の人と付き合ったほうがええだろう。そうして、自分の思想もそんなことだったし。ええ、徹底してこうやったら、えい、学校も入れてやれっということ。

実際こう恥ずかしながら今、子ども5人おります〈一同：ええー〉。自分がひとりだったから。異国の空の下で、5人が力を合わしたら、何をやっても生きていけるし、不良もおったり、そこには真面目なやつもおるだろうと思って、まあ一生懸命やりました。だから学校も、まあ、組織のみなさんも、周囲の人も、だいぶ力を貸していただいて。今はデイハウスのこんな仕事もやったり、江戸川の福祉関係にも手をつけるようになりまして。

——最初、東京に上がってきて、仕事は？

夫：江戸川です。プラスチック。

——プラスチック。

夫：プラスチックは何で言うたら、24時間稼動したんじゃないですか。そしたら晩だけやったんです〈一同：ああ〉。昼間は怖いから。自転車乗るのも、怖い〈一同：ああ〉。黒い服を来て歩く人、見ても怖い。みんな怖いんです。

——結局じゃあ、外登〔外国人登録証〕ができたのは、いつということですか？

夫：ですから、捕まっちゃって、誰かがこううまく言ってくれたのか、プラスチック、夜やって、昼寝してまた仕事行こうかなと思って家に着いたら、ノックされてちゃんと迎えに来てくれましたから〈一同：笑い〉。手帳持つて。

——で、その後、外国人登録証を作られたのに。

夫：ですから、あの入管、保釈されて、早速作った〈一同：ああ〉。

——妻の戸籍に登録をして、その、ここに永住権のある人が妻でいてるからっていうことで？

夫：そうですね。条件もいろいろあったんでしょう。まあ、金はないけど、日本の社長がわざわざ嘆願書を出して、従業員らの判子を貰ったり、なんかしてくれて。

——プラスチック工場の社長さんが？

夫：そうです。佐々木さん、社長さん。

——佐々木さん。なんで、そこに就職されたんですか。江戸川に住まれるのは、どうしてですか〈一同：笑い〉。

夫：それも、だからそれは、知り合いがありまして、あの仕事、あの時人手が足りないから〈一同：ああ〉。プラスチックというのが、どうだ、ということで。訳の分からん仕事やりました。ま、いろんなことやりましたよ。

——同胞の人たちが多かったんですか？ 全体的に。

夫：そうです、そうです。だから、儲かっている人も結構ありましたし、そして、あの10年ぐらいはプレスもやりました。だから指も落としました。

——こちらのお仕事なさるようになったきっかけは？

夫：んー、あのね、今まで20年近くタクシーを乗りました。

——タクシー運転手？ 20年近く？

夫：タクシー、もう仕事がないからね。いろんなやっても子どもは増えるし、ね。親としての責任も果たさなきゃならないし、収入が一番いいのがタクシーだという話もありましたし。

で、[プレス加工の仕事で] 指もちょん切られて。そこはもう同じ同胞でしたけど、騙されて、福利厚生をちゃんとやってるから心配するなと言って。後で見たら何にも入ってないんですよ〈一同：ああ〉。

——保障されなかったわけだ。

夫：何もしてない。こっちはバカだからね、人をすぐ信用するし、情に弱いんで、ね。あの人手が足りないから、ようし俺が力になったら幾分助かるだろうと思ってやったものが何にも、利用するだけで、何も入ってないんですよ。後で見て、頭にきたから、辞めるって。辞めるって言ったら、行くところないじゃないですか。で、タクシーやるという

ことで。知り合いがちょうど、あの今、中野にある城西タクシーってある。

——城西？

夫：東京、あの、無線は東京無線です。一生懸命やりました。東西南北、道も知らないし言葉も知らないんで。あの、タクシーみたいな怖い仕事もないし、今もあの恐ろしい。

——そうですね。危ないよね。

夫：だいふ、騙された事もあります〈一同：へえー〉。人情に弱くてね、あの、これしかないから、この分だけ乗せてくれたら有り難く思うって言って。やったら、後でお金を送るから［と言って］、送ってくれたこともしないし、そのまま。ここまで行ってくれ言って、降ろしたら、今お金取ってくるからって。待てど、待てど［戻って来ない］。で、警察に申告したら、何か申告してる人がね、犯人みたいにやられたこともあります〈一同：へえー〉。新宿警察も何回も行ったし、埼玉とか。まあ、タクシー乗って、いろんな勉強はいっぱいになりましたね。で、あの無我夢中で仕事やりましたから、会社でもトップクラスですよ。だから売り上げ1カ月100万近く、いつもありました〈一同：へえー〉。だから、4分6でしたから、僕には6割くるじゃないですか。4割は会社で。それでも、6割って大きいじゃないですか。

——大きいですね。

夫：その、厚生年金とか健康保険とか全部払っても手元が3、40万いつも入る。

——20年続けられたら、体がしんどいですよね。

夫：そうですね。しんどいって言うか。もう、軍の精神っていうのがあったんじゃないでしょうかね。今でもきちんと守ります。誰も僕より若い人にも負けん気でもう頑張ってます。

——20年されて、退職ってことなんですか？ 20年？

夫：あ、退職？ 65で退職なって。また、2年間ね、1年契約で2年間やりました。

《韓国へ》

夫：で、[江戸川・葛飾の親しい在日朝鮮人たちが] ここで生まれてここで育った方ばっ

かしなんですよ〈一同：へー〉。それで自分の故郷を一回踏みたいと言って。えー、3年前か。僕が会長という立場でその人らを連れて、成田から仁川<sup>インチョン</sup>空港。そしてイムジン河、そして休戦ライン。で、ソウルロッテ<sup>キョンジュ</sup>、慶州<sup>プサン</sup>。いろいろ見学さして。まあ、思い出にね、なったと思いますよ。自分の祖国を。

——そしたら夫さん自身は、日本に来てから最初に済州に戻られたのはいつなんですか？  
夫：えーっとね、こう言ったら恥ずかしながら、総連の関係ですずっとやりましたから、民団では認めないんですよ。それで、臨パス〔臨時パスポート〕をつくって墓参団<sup>(⑥-＊32)</sup>という名目で1回ありましたね。その時、行って来ました。そしたら、ん、もうみんな知ってるとこじゃないですか。墓参りして帰って来ましたけど。

で、次は、彼女〔妻〕も行ったことないから。行って来ました。そのころはひとりでも行っ  
たし。あの、金大中<sup>キム テ ジュン</sup>が政権握って、ちょっと自由に発言もできたし、行って若い人らに説教したりしたこともありましたけど。まあ、その人が(笑)、どう思うかわかりませんが、最近はちょっとストップしてるんです。今、李、李さんが。

——李明博<sup>イ ミョンバク</sup>大統領ね。オモニは、亡くなられたのは？

夫：朴正熙<sup>パク チョン ヒ</sup>の時、亡くなったんですけど、アカのお母さんだって、誰も来てくれなかったということで、妹が言っていました。

——咸徳<sup>ハムドク</sup>にずっと？

夫：ええ、咸徳<sup>ハムドク</sup>。

——住まわれていたんですか？ 妹さんとおふたりで。

夫：ええ。その家がまだ残ってるんじゃないか思うんです。一回行って、その家が残った  
たらね。あの、豚小屋みたいなとこ。ここは、あの、腰曲げないと入れない。そんなの。

——妹さんは今どこに？

夫：今、あの、済州市<sup>チェジュ</sup>にあります。

——済州市に。結婚されて？

夫：今、結婚されて子どももいます。立派に育っております。

——その家は今はもう？

夫：今はもう処分したか、分かりませんが。

——お母さんのお墓は？

夫：は、あの城山<sup>ソンサン</sup>〔邑〕の始興<sup>シフンリ</sup>里。

共同墓地に僕が行って、祖父<sup>ハラボジ</sup>とか〈一同：ああ〉。あの、お祖父ちゃん、祖母ちゃんの墓を全部そこに。家族、墓地に集めて、墓石をみな建てて。俺がいなくなっても、刻んでありますから、まあ何十年はもつでしょう。

——伐草<sup>ボルチョ</sup>\* 18 は誰が？

夫：誰もやってません。妹が見てくれています。あの、今までは。息子連れて1回行きたい気持ちがあるんですけど〈一同：笑い〉。李〔明博〕さんがちょっと……。

——李さんがちょっと〈一同：笑い〉。

夫：歓迎して「よく来てきてくれたんだ」。

——〔李さんは〕言わない〈一同：笑い〉。

夫：お前はよく来た言うてさ。僕ひとり犠牲になるのはいいんですよ。<sup>はた</sup>傍におる人が迷惑かけるのは、それが怖いんです。

——以前に委員長だった兄さんいるじゃないですか。亡くなった。その時、兄さんは結婚していらっしやらなかったのですか？ 兄嫁や義理の両親や。

夫：義姉は亡くなりました。私が初めて行って会った時には、〔義姉が〕もうびったし付いて。たったひとりの兄弟。

——ふたり。

夫：自分の旦那、亡くなって苦労したから、息子は釜山<sup>プサン</sup>にあります。甥は、もう、七寸<sup>チルチョン</sup>〔七親等。ただし甥はもちろん三親等＝三寸である〕でしょ。<sup>チルチョン</sup>七寸だからもう、情けが、それがありません。一緒に住んでおったら、だいぶ違うんでしょうけどね。僕は僕で、ここで、生きるために。李さんと違うから。金さん〔金大中大統領〕とか盧さん〔盧武鉉大統領〕の時は良かった〈一同：笑い〉。

——でも、そのお母<sup>オモニ</sup>さんが亡くなられる時に、ア<sup>バルゲンイ</sup>カのオモニだからと言ってっていうのは……。

夫：そう。今までは兄弟みたいに [過ごしていたのに]。同級生もありましたけど、誰も来てません。

——その後、軍隊に行ったりとかもされてるのに。

夫：誰も来てません。もうレッテルを貼られてるんです。済州<sup>チェジュ</sup>いうたら広く感じるけど、ほんと小っちゃい。すぐ行ったら、すぐ分かるんですよ。

——それは日本で総連の活動をしてるからっていうのもあるんですか？

夫：あるんです。じゃあ、堂々と、僕 [名前を] 出す時は、「うりまだん」[夫さんが運営に参加している在日朝鮮人向けデイハウス] のということで、住所で出しますから。で、その、ここであの一言、僕は言いますけど、この前電話がありまして。「どこですか？」「公安なんです」〈一同：へえー〉。法務省の公安だと。「夫さん、一緒に食事しませんか」って（笑）〈一同：へえー〉。

\* 本研究は科学研究費補助金（課題番号 24520782）の助成を受けたものである。

## 【用語解説】

### \* 8 高等公民学校

解放後の1948年から49年にかけて、韓国ではなお不十分だった公的初中等教育の補完のために、国民学校（小学校）以外の初等教育機関として公民学校が、中等教育機関として高等公民学校が教育法により制度化された。高等公民学校は初等教育機関を卒業した後、中学校に進学できなかった者のうち、年齢的に修学に適合しない者を対象に中学校教育の課程を実施した教育機関である。2010年現在、韓国全国で公民学校1校と高等公民学校4校が運営されている。

### \* 9 <sup>キムタルサム</sup>金達三（再掲）

4・3事件勃発当時の遊撃隊司令官。本名・李承晋。1926年、済州島大靜面永樂里に生まれ、京都の城峯中学校を経て、東京の中央大学に学ぶ。解放後の46年末、郷里に帰って大靜中学校の社会科教師となるが、一方で南朝鮮労働党の大靜面組織部長として活動する。48

年に入って相次ぐ党組織への弾圧の中で、強硬路線を主張し、軍事責任者として武装闘争の指示を出す。48年8月初めに済州島を脱出し、同月21日から海州で開催された南朝鮮人民代表大会に出席、済州島の闘争の成果を報告した。

彼の最期については諸説があるが、49年には南朝鮮に戻って太白山地区でのパルチザン闘争を指揮し、50年3月ごろ戦死した模様である。

## \* 10 学徒護国団

韓国政府国防部と文教部が、1949年4月中高生と大学生を対象に反共思想教育と有事の郷土防衛を目的として全国の学校に組織させた学生団体。学生の自治活動を抑制しその思想統制に一定の役割を果たしたほか、政府の主催する官製集会、官製デモにも動員された。1960年4・19革命後の民主化機運の中で廃止されたが、朴正熙軍事政権下の1975年に再組織され全斗煥政権時代の1985年まで存在した。

## \* 11 G2 / G3

韓国陸軍本部には、G1（人事）、G2（情報）、G3（作戦）、G4（後方補給）の担当別参謀部とその他の補助的参謀部署が組織されている。この組織形態と呼称は、日本敗戦後に一連の日本占領政策を遂行した連合軍最高司令官総司令部（いわゆるGHQ）と同一である。なお師団以下における同種の組織は、Gの代わりにSが使われる。

## \* 12 キムチュヨル 金朱烈

1944年全羅北道南原で出生。慶尚南道の馬山商業高校に入学した直後の1960年3月15日、馬山市内で李承晩独裁政権の不正選挙に抗議する大規模市民デモがあり金朱烈も参加したが、市庁近辺で警察隊の発射した催涙弾を右眼に受けて落命した。16歳だった。遺体は証拠隠滅のため馬山港海中に投棄されたが、4月11日漁夫により発見され遺体写真が全国の新聞に報道された。これを契機に反李承晩運動は韓国全土に急速度で拡大し、4月18日以降ソウル市内の学生を中心とするいわゆる4・19学生革命へと波及した。毎年3月15日に馬山で追悼式が開かれるほか、没後50年目の2010年4月11日には遺体の発見された馬山中央埠頭にて汎国民葬が開催されている。

## \* 13 イ キ ブン 李起鵬

韓国の政治家。1896年ソウルで出生。植民地期に米国デイバ大学に留学し解放後は李承晩の秘書として政界に入った。李承晩の右腕としてソウル市長、国防部長官、自由党中



央委員、民議院（国会）議長などを歴任し、自由党政権下で権勢を振るった。1960年正副大統領選挙に李承晩の事実上の後継者として副統領に出馬、当選したが、目に余る不正選挙は国民の怒りを買って4・19学生革命で副統領職を辞退した。ソウル市内の自宅は4・19デモ隊により破壊されたため景武台大統領官邸に家族で身を寄せたが、1960年4月28日未明、長男で陸軍少尉の李康石（李承晩の養子）により妻、次女とともに射殺された（李康石も自殺）。

#### \* 14 <sup>チャンミョン</sup>張勉

韓国の政治家、外交官。1899年、仁川に生まれる。水原高等農林学校、YMCA英語学校を卒業後、渡米し、1925年マンハッタン・カトリック大学を卒業して帰国。カトリック平壤教区で活動したのち、ソウルの東星商業学校校長に就任した。解放後は民主議院、過渡立法議院の議員などを歴任し、1948年の南朝鮮単独選挙で制憲国会議員に当選。卓越した英語力を買われ、第3回国連総会に韓国主席代表として出席、1949年に初代駐米大使として赴任し、朝鮮戦争勃発時には国連軍派兵などの外交交渉を主導する。1951年、国務総理に就任したが、翌年辞任。その後、1955年に申翼熙らと野党・民主党を結成し、1956年の正副大統領選挙で副統領に当選する。1960年の選挙で再選をめざしたが落選。ところが4・19学生革命による李承晩政権の崩壊にともない、国務総理に就任した。しかし翌1961年、朴正熙を中心とする若手将校らの5・16軍事クーデターにより政権を追われ、政治活動を禁止された。1966年死去。

#### \* 15 セマウル運動

朴正熙政権下の輸出至上型経済成長戦略は低廉な労働コストを要しており、農産物低価格政策は労働者の最低レベルの生活を維持するために不可欠だったが、農民には負担を強いた。そこで農民の不満を逸らすため朴政権は農村の近代化を強調し、農村近代化・地域の均衡的発展・農民意識改革をスローガンに1972年セマウル（新しい村）運動を正式に出発させた。政府の資金・物質援助で農民家屋や周辺の道路、水路などを刷新したほか、農村指導者養成や農村子女への奨学金給付などの事業を行った。セマウル運動により農業競争力が向上し農民の共同体意識や自発的意識を高めたとする評価のある一方、農村を犠牲にする工業主体近代化政策のための官製国民運動であり、農民の境遇に根本的な変化は起きず、むしろ運動そのものが中央官僚による利権介入や公金横領など腐敗の温床になったとする批判もある。



**\* 16 トルリムチャ 行列字（再掲，加筆）**

同じ一族の同一世代の者が木火土金水の五行の順にしたがって、これを部首に含む漢字1字を共有することにより、一族内の世代の上下関係を明らかにする命名の規則。個人の固有名は残りの1字のみによって示される。朝鮮王朝時代中期、族譜（家系に関する記録）の記載様式が整えられるのにもともない普及した。

夫熙錫さんの場合、本来は「熙」字が同世代共通の行列字である。ところが日本にいた夫さんの父が、夫熙錫さんの世代の行列字を「時」としたので、日本渡航後、夫熙錫さんは「夫鐘時」と名乗っていた。したがって「時」字を行列字にもつ夫根時さんは、族譜のうえでは夫熙錫さんと同世代の親戚ということになる。

**\* 17 サムソンヒョル 三姓 穴**

済州市街中心部の森と芝で覆われた平坦な場所に3個の穴が開いていて、その周辺は広く神域となっている。済州島にかつて存在した独立王国の耽羅国<sup>タムラ</sup>開国神話によれば、それぞれの穴から地底に暮らしていた高<sup>コ</sup>、良<sup>リヤン</sup>、夫<sup>ブ</sup>を姓に名乗る3人の神人が地上に現れ、耽羅<sup>タムラ</sup>国の始祖になったとされる。国立文化財史跡第134号に指定されている。

**\* 18 ボルチョ 伐草**

「掃墳」ともよばれる。陰暦8月の秋夕（中秋に行われ日本の盂蘭盆に相当する習俗）以前に、土饅頭型の祖先の墓に生えた雑草を刈り墓の周囲を清掃する風習。韓国全土でみられ、伐草のためには郷土の血縁者のみならず外地に出た者も帰郷して参加する。特に済州島では秋夕にも匹敵する重要な伝統行事とみなされている。早くから陰暦8月の伐草実行日が指定され、当日は血縁者が集合して数多い祖先の墓を一つずつ伐草し清掃する。近年では電動草刈り機が多用されるほか、伐草代行業も増えている。在日済州島出身者にとっても重要な行事と認識され、2000年代初めまでは伐草の期間になると、済州島出身者の多く住む大阪から済州に渡航する乗客向けに臨時航空便が運航されていた。